

聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か 第3回

□「スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）」に関する学び全体のアウトライン

第一部 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）

第二部 スピリチュアル・ライフと 信者の生活ルール

第三部 スピリチュアル・ライフと 聖霊

第四部 スピリチュアル・ライフと 交わり

第五部 スピリチュアル・ライフと 弟子

第六部 スピリチュアル・ライフと 倫理

第七部 スピリチュアル・ライフと 神の導き

第八部 スピリチュアル・ライフと 霊的戦い

□「聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）」のアウトライン

第一章 イン트로ダクション

第二章 6つの説明

第三章 霊的であることの3つの特徴

第四章 神の深み（I コリ 2：9～3：4）

第五章 幼子と成人の比較（ヘブル 5：11～14）

□前回までの内容

「第一章 イン트로ダクション」の要約

1. 霊的であることには、3つの要素がある・・・**新生、聖霊、時間**
2. 「スピリチュアル（霊的）であること」が含む重要なコンセプト・・・**成熟**である。
成長して大人になること、そしてさらに円熟に向かうこと
3. 「スピリチュアル（霊的）であること」と「スピリチュアル・ライフ」の定義
 - (1) スピリチュアル（霊的）であるとは、**聖霊との関係において成長すること**である。
 - (2) スピリチュアル・ライフとは、「**霊的な人**」になるための生き方、そして「**霊的な人**」としてふさわしい生き方をして、さらに成長し、円熟を目指す生き方である。

「第二章 6つの説明」の要約

1. 信者になったばかりの人・・・「霊的である」と呼ばれる人は、いない。信者になったばかりの人は、「**キリストにある幼子**」(I コリ 3:1) である。
2. 成熟・・・霊的に成熟する、つまり霊的に大人になるためには、時間が必要であると同時に、「**聖霊に明け渡すこと**」が必要である。信者となって長い時間がたったとしても、霊的に成熟していない、つまり大人になっていない人もいる。そのような信者は、「**肉的な人**」(I コリ 3:1) と呼ばれる。
3. **成長の段階**・・・成長には、いくつかの段階がある。乳児、幼児の時期から、青少年の時期を経て、大人になる。大人になってからも、いくつかの段階を経て、円熟に向かう。信者としての成長も同じである。聖霊との関係において成長する中で、いくつかの段階を経ていく。信者になってすぐに霊的な大人になるわけではない。いろいろな経験をする時間が必要である。また、霊的に大人になったからといって、それで成長が止まるわけではない。さらに成長し、円熟に向かう余地がある。
4. スピリチュアル・ライフの**領域**・・・信者はメシアの律法に従って生活する。メシアの律法は、多くの領域に関わる。信者の人格形成、家庭生活、教会生活、社会生活(特に職場や事業において)、市民生活など。よって、スピリチュアル・ライフの領域は、祈りや礼拝の時間のことではない。人生のいろいろな生活領域すべてから成る。
5. **後退**・・・信者は、ある領域では聖霊にゆだねた生活をしながら、他のある領域では後退してしまう、ということがある。
6. **幼子である期間**・・・ヘブル 5:12 「年数からすれば」・・・霊的に大人になるためには、一定の年数が必要である。1年程度では短い。I コリ 3:1~3 から推定されるのは、4~5年。

「第三章 霊的であることの3つの特徴」の要約

1. 霊的であることは、信者であることの証明である・・・信者であることの証明は **4つの分野**で現れる
 - (1) メシアに似た者とされていく
 - (2) 神のみことばについての知識を身につける
 - (3) 態度・雰囲気において、神への感謝にあふれ、兄弟姉妹との一致を求める
 - (4) 言動において、善と悪を見分ける
2. 霊的であることは、教会での交わりに現れる・・・互いに交わりを持ち、皆の益となるために賜物を用いて仕え合う
3. 霊的であることは、その人の**家庭に現れる**であろう・・・妻は夫に従うようになる、また夫は妻の必要を理解して妻への愛を現わすようになる

「第四章 神の深み（I コリ 2：9～3：4）」の要約・・・この箇所から、5つのポイント

1. 神の啓示は、今や書かれたことばを通して、信者たちに与えられている
2. 書かれたことばを読んで理解できるのは、聖霊が照明の働きをしてくださるからである
3. 聖霊は信者の内に住んでおられる。よって、信者が進んで受け取ろうとするなら、内住の聖霊から神の深みについて教えてもらうことができる。
4. 神の深みは書かれた神のことばの中に隠されている。神がご自身の知恵を信者に明らかにしてくださる方法は、今や、神の現れや幻によるのではない。神の知恵は、書かれた神のことばの中に隠されている。そして、信者が神の知恵の内容を理解するのは、二つのステップによる。第一に聖霊に教えられ、第二に教えられたことを自分の生活の中で適用していく、という二つのステップである。
5. 人は **4つの種類**に分けられる（一つは不信者、3つは信者）
 - (1) 生まれながらの人（I コリ 2：14）・・・ギリシア語の直訳は「魂的な人」、新生していない人である。救われていない人、不信者である。聖霊の内住がなく、聖霊による照明の働きを受けないので、神の深みを理解することができない。
 - (2) 霊的な人（I コリ 2：15～16）・・・霊的な人は、すべてのことを聖霊の照明を受けて判別する人である。導きを求めて、いろいろな人に尋ね回る必要はない。
 - (3) キリストにある幼子（I コリ 3：1～2）
 - ① 【誤】「幼子」、ギリシア語を直訳すると「フレッシュ（fresh）な人」。信者になったばかりの人である。
 - ② 【正】「幼子」、**ギ**ネピオスの原意は「まだ話せない人」、乳幼児を意味する。信者になったばかりの人で、まだ神のことばに通じていない人である。
 - (4) 肉的な人（I コリ 3：3～4）・・・信者であるが、神のことばの固い食物を食べることができるのに、そうしない人である。その人の内に聖霊が住んでおられるので、聖霊の照明を受けて、神の深みを知ることができるはずである。しかし、その人の【罪の性質】（聖書は、これを「肉」と呼ぶ）が妨げとなって、聖霊が十分に働くことができない状態にある。
 - ① 肉的な人の特徴のひとつは、他の兄弟姉妹との一致が保てず、交わりができないことである。コリントの教会の信者たちがそうであった。
 - ② 肉的な人は、「ただの人」のように歩んでいる。すなわち、信者でありながら、信者ではない人のように歩んでいる。肉的な人は、人生の生き方としては、見た目では生まれながらの人と何も変わらない。

信者

□本日の内容

第五章 幼子と成人の比較（ヘブル 5：11～14）

ヘブル 5：11～14 から、幼子あるいは肉的な人と、成人（＝霊的な人）との比較を学ぶ。幼子と肉的な人は、信者になってからの時間の経過に違いはあるものの、霊的に大人になっておらず、固い食物を食べることができない点においては同じである。

ヘブル 5：11～14 このメルキゼデクについて、私たちには話すことがたくさんありますが、説き明かすことは困難です。あなたがたが、聞くことに対して鈍くなっているからです。あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。

1. 幼子あるいは肉的な人は、成人（＝霊的な人）と比較して、3つの違いがある
 - (1) 11 節 「聞くことに対して鈍くなっている」→みことばの理解における違い
 - (2) 12 節 「もう一度だれかに教えてもらう必要がある」→みことばを教えることができるかどうかの違い
 - (3) 13～14 節 「義の教えに通じていない」「善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練されていない」→みことばを用いているかどうかの違い
2. 霊的な人になるためのステップ
 - (1) ミルク＝初歩の教え、すなわち基本的で主要な教理を学び、それを繰り返さなくともよいほどに理解する。そして、それを他の人にも教えることができるようになる。
 - (2) ミルク＝初歩の教えであっても、それを実際の生活の中で適用していく。
 - (3) 固い食物＝神の深み・・・これは、説明することが難しいテーマである。たとえば、ヘブル人への手紙の中の「メルキゼデクの例に倣う大祭司」（ヘブル 6：20～10：18）である。これを理解できるようになり、さらに他の人にも教えることができるようになる。
 - (4) 固い食物＝神の深みを、実際の生活の中で用いて、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練していく。